
大学教育学会ニュースレター

No.87 2011.4.13

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス 3 階

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042) 704-7014

郵便振替口座 : 00120-4-178891 大学教育学会

e-mail : ungakkai@gmail.com URL : <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

「大学教育学会第33回大会をお迎えするにあたって」

大学教育学会第33回(2011年)大会
大会実行委員長 大越 孝(桜美林大学・副学長)

3月11日(金)東日本大震災が起きました。被災された地域の方には心よりお見舞い申し上げます。未曾有の大惨事で大きな危機的状況のとき、大学にできることとなすべきことを考えねばならないでしょう。

さて桜美林大学での開催は、第17回大会(1995年)以来となります。その時のテーマは「日本社会の変容と大学教育改革の課題—教養教育(一般教育)の再構築をめぐって」でした。学会の名称の変更が1998年ですから、まだ一般教育学会の時代でした。学会会員数もそのころと比べると格段の増加をしています。学会も変容していったことがわかります。

今回の総合テーマは「大学教育の質とは何か—ふたたび大学のレゾナントルを問う」です。佐藤東洋士桜美林大学学長による基調講演をもとに二つのシンポジウムが行われます。例年と異なり、1日目はシンポジウム中心、2日目が午前中ラウンドテーブル、午後は自由研究発表となります。今大会は自由研究、ラウンドテーブルの発表申し込みが史上最大のものとなったようです。

国際水準での大学の質保証が叫ばれている中で、我々がなすべきことは何か。その実践的なトピックが取り上げ議論されるのは重要なことです。また大学教育が高校を卒業したばかりの青年層だけでなく、あらゆる年齢層にとって意味のあるものとするための大学の存在意義を問うことは意義あることだと思います。

1日目の会場である桜美林大学多摩アカデミーヒルズ(旧ウェルサンピア多摩)は京王線、小田急線多摩センター駅より緩やかな坂を上った小高い丘の上にあります。2010年5月1日に開設され、地域大学、多摩市をはじめとした行政、さらには近隣の方々とともに、教育・研究・文化振興の拠点として広く活用されていく予定です。2日目は町田キャンパスにて行います。また昨年に引き続き新入会員セミナーも予定しています。多数の皆様の参加をお待ちしております。

なお、今大会の企画にご尽力いただいた常任理事会及び企画委員会の皆様方、運営・開催にあたる実行委員会の皆様方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

大学教育学会 第33回(2011年)大会

総合テーマ

「大学教育の質とは何か—ふたたび大学のレゾナードールを問う—」

1. 開催日時及び会場

期日 2011年6月4日(土)～5日(日)

会場 桜美林大学 多摩アカデミーヒルズ(京王線・小田急線多摩センター徒歩10分)

桜美林大学 町田キャンパス(JR横浜線淵野辺駅下車スクールバス8分)

2. 大会日程

第1日:6月4日(土) 多摩アカデミーヒルズ

8:30	9:00	9:30	9:40	12:10	13:10	14:10	14:20	15:20	15:30	18:00	20:00
受付	新入会員 セミナー			シンポジウムI	昼食	総会		基調講演		シンポジウムII	懇親会

第2日:6月5日(日) 町田キャンパス

8:30	9:00	12:00	12:15	13:10	16:40
受付	ラウンドテーブル		昼食 次回大会校 挨拶等		自由研究発表

第1日 6月4日(土) 多摩アカデミーヒルズ

8:30～ 受付

9:00～9:30 新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション

9:40～12:10 シンポジウムI (150分)

12:10～13:10 昼食

13:10～14:10 総会 (60分)

14:20～15:20 基調講演

15:30～18:00 シンポジウムII (150分)

18:00～20:00 懇親会

第2日 6月5日(日) 町田キャンパス

8:30～ 受付

9:00～12:00 ラウンドテーブル

12:00～13:10 昼食

(12:15～) アトラクション・次回大会開催校挨拶等

13:10～16:40 自由研究発表

▲ 関連行事

6月3日(金)

16:00～ 理事会(多摩アカデミーヒルズ)

18:30～ 理事会懇親会(多摩アカデミーヒルズ)

第1日 6月4日(土) 多摩アカデミーヒルズ

8:30 ~ 9:00 受付

9:00 ~ 9:30 新会員及び初めて参加される方のためのオリエンテーション (御岳)

本学会は「大学教育」を共通の切り口として、様々な分野の方々が集まっています。このセッションでは、主に初めて学会大会に参加される方や最近会員になられた方々を対象に、本学会の簡単な歴史、学会として取り組んでいる課題、学会誌に投稿する際の注意事項などを紹介いたします。

9:40 ~12:10 シンポジウムⅠ (鳳翔・御岳)

「現代における生涯発達と大学教育」

報告

- ・生涯発達と大学教育 足立 寛 (立教大学)
- ・キャリア形成とライフサイクル 山崎 洋子 (武庫川女子大学)
- ・大学入学のレディネス 筒井 洋一 (京都精華大学)

司会 松岡 信之 (国際基督教大学、企画委員)、井下 千以子 (桜美林大学、実行委員)

12:10 ~13:10 昼食

13:10 ~14:10 総会 (鳳翔)

14:20 ~15:20 基調講演 (鳳翔・御岳)

演題 「何のため、誰のための質保証」

講師 佐藤 東洋士 (桜美林大学長)

司会 大越 孝 (桜美林大学副学長、大会実行委員長)

15:30 ~18:00 シンポジウムⅡ (鳳翔・御岳)

「大学教育における質保証の実践的展開とその意味」

報告

- ・3つのポリシーの策定と一貫性構築によるカリキュラムの質保証 佐藤 浩章 (愛媛大学)
- ・GPAについて (仮題) 筒井 泉雄 (一橋大学)
- ・学生調査の開発とマルチレベルFDとの連動による教育の質保証 山田 剛史 (愛媛大学)

司会 川島 啓二 (国立教育政策研究所、企画委員)、中村 雅子 (桜美林大学、実行委員)

18:00 ~20:00 懇親会

第2日 6月5日(日) 町田キャンパス

8:30~ 受付

9:00~12:00 ラウンドテーブル

テーブル1 共通教育のアウトソーシング

会場: 太平館A301

企画者: 吉永 契一郎(東京農工大学)、小林 勝法(文教大学)、小山 悦司(倉敷芸術科学大学)、吉田 香奈(山口大学)、古畑 徹(金沢大学)、山内 正平(千葉大学)、木本 尚美(県立広島大学)

趣旨: 共通教育のスリム化・スキル化に伴って、専任教員を置かず、単位互換制度や非常勤講師、外部委託を活用しようとする大学が増加しているように見受けられる。このような傾向は、専任教員の負担を減らし、より一層スキル教育に特化した教育を実現すると同時に、共通教育担当の専任教員のポストを減らすという矛盾を抱える。

このラウンドテーブルでは、外部委託を引き受けている会社の方を招いて、その普及状況や仕組み、メリットなどを聞いた上で、今後、大学がどのようにして共通教育において外部委託を活用すべきかを議論する。対象としては、英語教育やキャリア教育、情報教育を考えている。

テーブル2 授業コンサルテーションの現状と可能性

会場：太平館 A302

企画者：佐藤 浩章（愛媛大学）、倉茂 好匡（滋賀県立大学）、香川 順子（徳島大学）、
安野 舞子（横浜国立大学）、城間 祥子（愛媛大学）、大竹 奈津子（愛媛大学）

趣旨：日本の大学においては、ミクロレベルのFD(授業改善)の手法として、授業アンケート、公開授業ならびに授業検討会が一般的である。一方、いくつかの大学においては、教育開発担当者による授業コンサルテーションの取組が始まっている。授業コンサルテーションは、教育開発担当者がクライアントである大学教員とともに授業の課題を発見し、解決策を共に模索する取組であり、北米圏では最も一般的な授業改善手法とされている。本RTにおいて、参加者は、日本の4つの大学において行われている授業コンサルテーションの事例を通して、その手法、効果、実施にあたっての留意点について学ぶことができる。

テーブル3 大学におけるカリキュラムの設計と実施(カリキュラム・マネジメント)—大学の協働可能性—

会場：太平館 A303

企画者：佐々木 一也（立教大学）、本郷 優紀子（桜美林大学）、秦 敬治（愛媛大学）、
清水 栄子（阿南工業高等専門学校）、今田 晶子（立教大学）、寺崎 昌男（立教大学）

趣旨：大学業務には教員に重要でしかも教員だけではその目的達成が難しい仕事がある。それはカリキュラムの設計、構成、実施の仕事である。特に教養教育や資格課程教育などのいわゆるカリキュラム・マネジメントである。それには施設・学生数などの諸条件や、学生や社会の要望などを考慮する必要がある。そこでは、カリキュラムの本来の計画・作成に関わることやその実現そのための学問的専門領域外の諸条件への配慮など、大学人全体として基本的認識を共有することが不可欠である。本ラウンドテーブルでは大学カリキュラム論に造詣の深い方々のお話をいただき、フロアーからの経験事例にも学びながら、カリキュラム・マネジメントと協働の関係を考える。

テーブル4 教育改善のための教育情報アーカイブス—授業映像は授業改善にどう役立てられるのか—

会場：太平館 A304

企画者：江本 理恵（岩手大学）、遠山 紘司（神奈川工科大学）、尾澤 重知（早稲田大学）、
中島 平（東北大学大学院）、村上 正行（京都外国語大学）

趣旨：映像機材やICTの発展に伴い「映像」が扱いやすくなった現在、有力な教育情報の1つとして「授業映像」が大きな役割を担うことが期待される。しかし、撮影した90分の授業映像を見るのには90分かかることなどを考えると、撮影した「授業映像」を教育情報として有効活用するためには、その能性を引き出す方法論を考えていかなければならない。

本テーブルでは、実際に授業や授業改善に「授業映像」を活用している大学教員を中心に、授業映像を教育改善に役立てる教育情報とするにはどうすればよいのか、その可能性及び方法論について議論する。

テーブル5 保健医療福祉系大学における教養教育の問題(2)—人文社会系教養の意義を考える—

会場：太平館 A401

企画者：小野 滋男（北海道医療大学）、志水 幸（北海道医療大学）、堀井 泰明（天使大学）、
森元 拓（北海道医療大学）

趣旨：「教養教育と専門教育のつながり」を論題とした前回のラウンドテーブルでは、保健医療福祉系

大学にとっては専門教育即ち職業教育に資する形での教養教育の遂行が重要であるとの意見と、反対に将来の職業人を見据えた上での「総合力」「人間力」の涵養こそが教養教育の使命であるとの意見の二つに分かれた。そこで、教養教育と専門教育という枠を超えて、両者を総合した教育体制が本来求められるべきとの結論に至ったが、カリキュラム等の具体的展開に向かう前にやはり教育目的について改めて議論を深めることが急務であるとの認識から、「医療人教育」に結びつく理念について掘り下げ、前提となる学問の獲得がいかになされるべきかを検討する。

テーブル6 学生とともに進めるFD

会場：太平館 A402

企画者：木野 茂（立命館大学）、大崎 雄二（法政大学）、梅村 修（追手門学院大学）、
服部 憲児（大阪大学）

趣旨：立命館大学では2006年度にFDの定義の中に「学生の参画を得て」進めることを明記したことを契機に学生FDスタッフを募集し、学生FD活動を開始した。さらにその後、学内だけでなく、学生FDを全国に広めることを目指して、2009年8月に第1回の「学生FDサミット」を開催した。サミットはその後、半年に1回のペースで続いている。さらに学生FDを始める大学も増えており、今や30大学にまで広がっている。

昨年をはじめこのテーマでラウンドテーブルを企画したが、その後の学生FDの広がりを受けて、今回は新たに取り組み始めた大学からの報告を受け、学生とともに進めるFDの今後について参加者とともに考えたい。

テーブル7 ライティング教育を基点にした学習支援とFD活動の展開(3)

会場：太平館 403

企画者：井下 千以子（桜美林大学）、小笠原 正明（筑波大学）、米澤 誠（国立情報学研究所）、土持 法一（帝
京大学）、井下 理（慶應義塾大学）、柴原 宜幸（日本橋学館大学）、田部井 潤（東京国際大学）

趣旨：ライティング教育は、すべての学習、学問の基盤となるものとして、国内外を問わず、その支援体制は近年さらに多様化していることをこれまで報告してきた。本報告では、学士課程教育における「書く力」の共通基盤とは何かといったテーマのもと、基盤とする指標としての評価（ルーブリック）のあり方、学習基盤を構築するための図書館やラーニング・コモンズなどの支援体制のあり方、さらには一生涯通じてのキャリア発達を見据え、大学での書く力をいかに発展させていくことができるかといった観点から議論していきたい。

テーブル8 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅲ ー大学職員の教育支援力の検証ー

会場：太平館 A404

企画者：高橋 真義（桜美林大学大学院）、米田 敬子（文教大学生生活科学研究所）、中村拓昭（九州産業大学）、
塩崎 俊彦（高知大学）

趣旨：教員と職員の関係を「大学学生教員職員三輪車論」（『高等教育論入門』2010. 11. 30 ミネルバ書房P. 160）において三輪車に例え、学生は前輪でペダルをこぎ、教員と職員は後輪で適正なパートナーシップを保ち、教員の「教育力」と大学職員の「教育支援力」を発揮し、学生の持てる能力を引き出すことができるとした。

大学職員の教育支援力について考察や実施事例、学生のコミュニケーション力が向上した事例など、学生教職員の視座から発表をする。洞察を深めるために、大学職員がファシリテーターを務め、「自己表現・評価トレーニング」簡略版とディスカッションをおこなう。学生と大学の可能性を大きくする大学職員の教育支援力について検証をする。

テーブル9 学生支援の実践からその問題軸を考える

会場：太平館 A501

企画者：川島 啓二（国立教育政策研究所）、田中岳（九州大学）、小貫有紀子（九州大学）、

西村秀雄（金沢工業大学）、西本佳代（香川大学）、望月由起（お茶の水女子大学）

趣旨：学生支援は、学生相談、キャリア支援、経済的支援、学習支援、ピア・サポートなど、その領域は大変広範なものになってきており、分野、目的、方法の多様な展開とあわせて、問題軸の構成とそれに基づく構造化が課題となってきている。

そこで、本ラウンドにおいては、学生支援に関する実践事例から、問題を絞り込みながら、学生支援の全体像を展望する試みを行なう。

テーブル10 大学教育における「文章表現科目」開講の具体的プロセスと連動した担当者のFD活動の提案

会場： 太平館 A502

企画者： 成田 秀夫（学校法人河合塾）、中村 博幸（京都文教大学）、大島 弥生（東京海洋大学）

趣旨：多くの大学で開講されているレポート作成などの「文章表現科目」では、同一科目名、同一シラバス、同一テキストであっても、実際の内容が食い違っていることが多い。それは担当教員個々の教育観や学習志向が暗黙知化されていること、対象となる学生の実体が進まえていないことなどによると考えられる。そうした暗黙知を顕在化させ、学生の実態に合った内容で科目を構成するためには、ワークショップ形式の研修で、担当教員が教育観を自覚してそれらを互いに認め合い、科目の具体的な展開についての理解を共有化することが望ましいと考えられる。こうした視点に立ち、具体的なFD研修プログラムとその事例について多目的に検討していきたい。

テーブル11 教育改革促進のための大学経営陣のリーダーシップ形成と研修プログラム

会場： 太平館 A503

企画者： 夏目 達也（名古屋大学）、中井 俊樹（名古屋大学）、中島 英博（名城大学）

趣旨：大学経営の環境が厳しくなる中、大学経営陣の経営能力が問われている。諸外国では、この事態に対処するために、従来から大学経営陣向けの各種研修が実施されている。日本では、国大協や日本能率協会等が経営陣向けセミナー等を開催しているが、多くの場合、単発のセミナーにとどまっている。

本ラウンドテーブルでは、このような状況をふまえつつ、諸外国の大学経営陣向け研修プログラムの実施状況を、各国の制度や大学運営の文脈に即して紹介するとともに、日本における研修プログラムの可能性について検討する。

テーブル12 学生の理解を深める教授学習(deep approach)

会場： 太平館 A504

企画者： 加藤 かおり（新潟大学）、杉原 真晃（山形大学）、ホートン広瀬 恵美子（芝浦工業大学）

趣旨：本ラウンドテーブルは、テーマとして、近年の大学教育の主要な方向性になりつつある「学習者中心の教育」について1つのアプローチである学生の理解を深める教授学習(deep approach, deep learning)を取り上げ、その基本コンセプト、試行的な実践事例に関する話題提供をし、その意義や方法などについて議論を行う。

テーブル13 大学生の健康と活力、社会性

会場： 明々館 A305

企画者： 木内 敦詞（大阪工業大学）、奈良 雅之（目白大学）

趣旨：大学生の心身の健康と社会性。それが今、危ぶまれている。しかし、現在進行中の高等教育改革において、学生の心身の健康と社会性を育むことは、中心的な話題としてまったく扱われてこなかった。そこでこのラウンドテーブルでは、①今日の大学生の健康状態や問題点を整理するとともに、その改善方略を、②ストレスマネジメント、③健康行動科学、④ライフスキル教育、という3つの視点から提案する。演者の提示する具体的なデータと、ラウンドテーブル参加者みなさんの経験知や感性をすりあわせることによって、大学生の健康と活力、そして社会性を育むことの意義や価値を、熱く議論したい。

テーブル14 実践研究による理論と実践知の往還

会場：明々館 A306

企画者：細川 和仁（秋田大学）、森 朋子（島根大学）、今野 文子（東北大学大学院）、濱野 英巳（慶應義塾大学）、松下 佳代（京都大学）

趣旨：大学教育の改善・充実を進めていくためには、実践研究の蓄積が重要である。実践研究を通じて得た実践知・経験知から理論を構築し、さらに別の文脈の実践の場に応用されることによって、新たな理論が再構築されていく。このような理論と実践知の往還によって大学教育の改善・充実は進められる。特に昨今では、大学教育におけるアクション・リサーチにも注目が集まっており、教育実践をじっくりと分析・考察する研究が求められている。

そこでこのラウンドテーブルでは、大学教育において特に実践研究に取り組んでいる方々にお集まりいただき、今後どのような研究・実践が求められていくか、またその研究の進め方等について検討する。

テーブル15 教養教育としての大学の環境教育の多様性

会場：明々館 A405

企画者：内山 弘美（茨城大学地域総合研究所）、細川 敏幸（北海道大学）

趣旨：高等教育政策と大学の環境教育に関するシンポジウムは、企画者の一人である内山により、複数の環境系学会で10回以上開催されてきた。2005年の環境科学学会年会では、教養部改組に伴い設立された環境冠学部・大学院を対象とした。この様な動向を踏まえた上で、本ラウンドテーブルでは、大綱化以降の教養教育レベルにおける環境関連授業科目（一部に環境を扱う授業も含む）を対象とする。具体的には、大学類型別、受講学生の属性別（文系か理系か）に、教育内容や教育方法の特徴を洗い出す。総合討論においては、大学類型・学生属性別に教えるべき環境の内容や環境を通して伝えるものの相違、及び全体に共通する課題や解決策に関して議論を行う。

テーブル16 生涯学び続ける学士を育てるための授業アプローチを探る

会場：明々館 A505

企画者：野崎 浩成（愛知教育大学）、小山 義徳（聖学院大学）、たなか よしこ（日本工業大学）

趣旨：新卒3年以内に退職者が大卒者で3割、25才以上のニートが36万人、フリーター91万人、さらには大卒高学歴層にも、無業者の占める割合が大きくなっている。18才人口の約半数が大学に入学する今日では、大学卒業者は必ずしも社会の指導的役割を果たすとは限らない。その一方、大学では高等教育機関としての質の保障、「学士力」として1. 知識・理解、2. 汎用的技能、3. 態度・志向性として自己管理能力・チームワークとリーダーシップ・倫理観・市民としての社会的責任・生涯学習力、さらに4. 統合的な学習経験と創造的思考力が求められている。従来であれば、企業が育成してきた社会人として素養の部分も含まれており、大学教育が、専門分野における高等教育以外の幅広い視点から教育しなければならないというユニバーサルアクセス型に変わってきたと言える。そのようなニーズの中で、どのようなアプローチをすればこれらのニーズに応えられる教育方法・授業改善があるかを討論する。

テーブル17 学生・職員と創る大学教育：FDの新発想

会場：明々館 A507

企画者：清水 亮（三重中京大学）、橋本 勝（富山大学）

趣旨：今、大学には「学生が何を学んだか」に焦点をおく教育から「学生が何をできるようになったか」への教育の転換が求められている。大学に求められている教育の変革を実のあるものにするには、大学コミュニティの構成者である「学びの主権者」である学生とその学びを支える職員の存在であり、彼らの潜在能力の引き出しである。

このラウンドテーブルは、大学コミュニティを巻き込んで新たな試みをしてこられた団体会員の大学の大学教員、大学職員や学生をパネリストとし、PBL導入の効果、学生主体型授業、学生参画型FDを推進されてきた経験と知見をご披露いただき、フロアと「学生・職員と創る大学教育」の今そしてこれからについて考えてみたい。

テーブル18 一般教育の知的遺産を活かす(その3)

会場: 明々館 A508

企画者: 志津木 敬(広島大学)、竹下 賢(関西大学)、山下 伸也(関西学院大学)、丹生久吉(三重大学)、坂入 明(東京家政大学)

趣旨: 2010 年度に発表され、公刊された日本学術会議の提言や広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』などでは、一般教育が用いられております。しかしながらその一方では、各種提言や刊行物は、一般教育の定義や概念に関して戸惑いがみうけられることも一方の事実です。

一般学生は、ジョセフ・ベン＝デービット『学問の府』において専攻意識の希薄な学生として用いられ、一般学生に対する教育としても用いられる場合も存在します。しかし一般学生という用語そのものは、新制大学発足当初から用いられてきた用語であり、実は一般教育とゆかりのある用語でもあったのでした。

本ラウンドテーブルは、一般学生を一般教育の知的遺産として捉え、一般学生を手掛かりにしながら、近年の大学教育改革動向に迫ってみようというものであります。多くの先生方の御参加をお待ち申し上げます。

12:15~13:10 昼食(桜カフェ) アトラクション・次回大会開催校挨拶等

13:10~16:40 自由研究発表

部会につきましては、申込み時に選択された演題種別をもとに実行委員会・企画委員会で調整させていただいております。ご希望通りの種別に振り分けられていない場合もございますが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

部会1 学士課程教育(1)

司会: 杉谷 祐美子(青山学院大学)・田中 義郎(桜美林大学)

会場: 太平館 A301

- 13:10~13:30 教養教育に関する「外部評価」の実施状況—国立大学法人を中心として—
高野 篤子(秋田大学)
- 13:30~13:50 学士課程教育の質保証のための工夫・改善への取り組み
小川 勤(山口大学)
- 13:50~14:10 「修養」なき修養思想?—「春秋戦国時代」に見る
加藤 恒男(至学館大学)
- 14:10~14:30 科学教養は21世紀の教養教育となり得ないのか—教養教育の新学部創設の困難性—
黒田 光太郎(名城大学)
- 14:30~14:50 総合討論
- 14:50~15:00 休憩
- 15:00~15:20 専門を越えた教育達成目標の策定プロセス—福島大学における共通教育改革と
スタンダード構築の事例から—
丸山 和昭(福島大学)
- 15:20~15:40 functional GPA の算法検証: 従前の GPA からの移行とその最適互換性をめぐって
半田 智久(お茶の水女子大学)
- 15:40~16:00 高等教育現場におけるジェネリックスキル定義の曖昧性—学部長ヒアリング調査から—
野田 文香、齋藤 聖子(大学評価・学位授与機構)
- 16:00~16:20 大学生の成長を多面的に捉える尺度開発の試み
岡田有司、宮浦崇、鳥居朋子、青山佳世、中野正也、吉岡路(立命館大学)
- 16:20~16:40 総合討論

部会2 学士課程教育(2)

司会：濱名 篤(関西国際大学)・舘 昭(桜美林大学)

会場：太平館 A302

- 13:10～13:30 佐賀大学学士力とチューター制度を利用したラーニング・ポートフォリオシステムの開発 皆本 晃弥、藤井 俊子、山内 一祥、日永田 泰啓、滝澤 登(佐賀大学)
- 13:30～13:50 学士課程における日本語リテラシー教育体系化の課題 伊藤 奈賀子(鹿児島大学)
- 13:50～14:10 児童英語教育支援の取組の成果と課題 一体験学習を通して培われる英語学習への動機付け、協調性、自主性— 松久保 暁子(桜美林大学)
- 14:10～14:30 オンデマンド授業における学習意欲を継続させるための方策 山藤 誠司(桜美林大学)、安岡 高志(立命館大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 学習者中心のアクティブラーニングを導入している大学はどこか?(調査報告) 谷口 哲也(河合塾)
- 15:20～15:40 「教員個人」から「教育組織」に対するFD指標への転換 住吉 広行、片庭 美咲、浜崎 央(松本大学)
- 15:40～16:00 学習者の多様性にもとづく授業のリフレクション—京都大学プレFDプロジェクトにおける学生インタビューから— 半澤 礼之、田口 真奈、田川 千尋、松下 佳代(京都大学)
- 16:00～16:20 総合討論

部会3 教育方法・授業改善(1)

司会：奈良 雅之(目白大学)・林 義樹(日本教育大学院大学)

会場：太平館 A303

- 13:10～13:30 学生が、学年間を超え、主体的に学び育つ授業実践—教職科目「教育方法・課程論(特活含)」の履修体験から— 小島 勇(東京電機大学)
- 13:30～13:50 「学習させる」授業改善による主体的な学びの推進—下位大学における実践の考察— 清水 亮(三重中京大学)
- 13:50～14:10 学生参加型としての自問自答の引き受け 飯野 幹夫(国立音楽大学)
- 14:10～14:30 大学生を対象としたロールレタリングの導入—生と死の教育に関する探索的試み— 佐瀬 竜一(大阪国際大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 聴く力を涵養するためのコミュニケーション・プログラム—その指導法と効果— 穂田 照子(桜美林大学)
- 15:20～15:40 学部3, 4年生を対象としたゼミナールにおける学習者要因・学習環境・学習成果の関係 伏木田 稚子、北村 智、山内 祐平(東京大学)
- 15:40～16:00 コースの中間期に実施する自身の授業における授業改善 吉田 博、金西 計英(徳島大学)
- 16:00～16:20 授業改善のためのアンケート結果を即時フィードバックして学生とともに眺めることの功罪 家島 明彦(島根大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会4 教育方法・授業改善(2)

司会：榎本 直文(首都大学東京)・橋本 勝(富山大学)

会場：太平館A304

- 13:10～13:30 なぜ引用が必要なのかーレポート執筆に関する学生の認識ー
西垣 順子(大阪市立大学)
- 13:30～13:50 通常講義科目におけるレポート作成指導ー「環境経済学」における試みー
山本 英司(奈良産業大学)
- 13:50～14:10 当日ブリーフレポート方式(BRD)による講義の展開
宇田 光(南山大学)
- 14:10～14:30 「書くこと」を通じたクリティカルシンキング教育の実践
久保田 祐歌(立教大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 誰が剽窃をするのかー社会科学分野の大学生に着目してー
小山 治(東京大学大学院)
- 15:20～15:40 大学における授業デザインを省察するためのモデルの検討ーアクティブ
・ラーニング形態の授業を対象にー
大山 牧子、田口 真奈(京都大学)
- 15:40～16:00 eラーニングによるリメディアル学習とプラス学習への取り組み
有賀 清一、本郷 優紀子(桜美林大学)
- 16:00～16:20 PBL で自信を持たせる大学リメディアル英語教育
間中 和歌江(東京純心女子大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会5 教育方法・授業改善(3)

司会：小林 勝法(文教大学)・香西 敏器(山梨)

会場：太平館A401

- 13:10～13:30 研究室における教育機会の分類
山内 一祥(佐賀大学)、大竹 奈津子、城間 祥子(愛媛大学)
- 13:30～13:50 研究・教育の場としての大学研究室に関する分析枠組みの開発
城間 祥子(愛媛大学)、山内 一祥(佐賀大学)、大竹 奈津子(愛媛大学)
- 13:50～14:10 大学生の体験報告について
垣本 せつ子、ティモン・ニューフィールズ(東洋大学)
- 14:10～14:30 授業・授業外学習観から見た大学生タイプー日中比較を通してー
蔣 妍(京都大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 遠隔授業における授業改善
岡部 昌樹(金沢星稜大学)
- 15:20～15:40 共創型学習における地域社会人ボランティアの参画
齊藤 隆仁(徳島大学)
- 15:40～16:00 共通教育科目「スポーツ」における標準化への取り組み
庭崎 隆、日野 克博(愛媛大学)
- 16:00～16:20 教育への携帯電話導入
増田 順子、尾崎 康弘(東北女子大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会6 高大連携・初年次教育

司会：近田 政博(名古屋大学)・出光 直樹(横浜市立大学)

会場：太平館A402

- 13:10～13:30 島根大学における補完・補習教育の改善と修学サポートプログラム
雨森 聡(島根大学)
- 13:30～13:50 入学前教育の効果測定指標としての退学率
山本 由紀、住吉 広行、片庭 美咲(松本大学)、松本 美奈(読売新聞社)、
柴田 幸一(松本大学)
- 13:50～14:10 日本語授業における大学講義参加への取り組み
福島 智子、三宅 若菜(桜美林大学)
- 14:10～14:30 知的自律と自己の発達を支援するアカデミック・キャリアガイダンス
—初年次教育と入学前教育プログラムの開発を踏まえて—
井下 千以子(桜美林大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 「何故だろう」の疑問を持たせることは自ら学ぶ学生を育てる手法として
有効か
安岡 高志(立命館大学)
- 15:20～15:40 チュートリアル教育における学生間の評価コメントに関する指導と分析
仙石 昌也、山森 孝彦、久留 友紀子、宮本 淳、小島 貞男(愛知医科大学)
- 15:40～16:00 科目連携型初年次教育の試み —その2—
松浦 正博、中田 美喜子、石井 三恵(広島女学院大学)
- 16:00～16:20 eラーニングと指導員フィードバックによる学術的文章作成授業の効果測定
富永 敦子、齋藤 綾子、宮本 明子、内田 夕津、佐渡島 紗織(早稲田大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会7 理数教育・学生支援

司会：細川 敏幸(北海道大学)・青野 透(金沢大学)

会場：太平館A403

- 13:10～13:30 気候変動教育
坪田 幸政(桜美林大学)
- 13:30～13:50 討論を中心とした細胞分子生物学の授業設計
西山 宣昭(金沢大学)、佐藤 伸平(金沢電子出版)
- 13:50～14:10 e-learning をきっかけとした学生の自主学習を促す授業の実践報告
浅羽 修丈、廣渡 栄寿、中尾 泰士(北九州市立大学)
- 14:10～14:30 科学コミュニケーション活動を通じた大学の地域貢献
四方 周輔(東海大学札幌)、長谷川 誠(千歳科学技術大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 大学教育におけるリーダーシップ養成に関する考察—批評的振り返りに焦点を当てて—
泉谷 道子、岸岡 洋介、秦 敬治(愛媛大学)
- 15:20～15:40 「ひとりランチ」に関する社会学的研究
二宮 祐(一橋大学)
- 15:40～16:00 学習環境が学生の学習に与える影響 —図書館、学習支援室、自主学習スペースの
比較から—
大竹 奈津子、城間 祥子(愛媛大学)、山内 一祥(佐賀大学)
- 16:00～16:20 精神的な学生支援を射程とした教養教育の現代的意義と授業のあり方
松田 淑子(福井大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会8 キャリア教育

司会：大塚 雄作(京都大学)・佐々木 一也(立教大学)

会場：太平館A404

- 13:10～13:30 大学生の2つのライフの構造分析1—将来指向性と日常指向性のバランス
の観点から— 畑野 快、溝上 慎一(京都大学)
- 13:30～13:50 大学生の2つのライフの構造分析2—将来指向性と日常指向性のバランス
の観点から— 溝上 慎一、畑野 快(京都大学)
- 13:50～14:10 学生と取り組むキャリア授業の試み—授業準備・実施過程への学生参加—
筒井 洋一(京都精華大学)
- 14:10～14:30 教職員協働によるキャリア教育の実践とSDの可能性
古賀 暁彦(産業能率大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 大学教育における「キャリア教育」と「職業教育」の融合に向けた試み
萬年山 啓(LEC東京リーガルマインド大学)
- 15:20～15:40 トランスポートナブルな技能習得の場としてのTA経験—キャリアの多様化を観点に—
長谷川 詩織(筑波大学)
- 15:40～16:00 コミュニケーション技術分野におけるキャリア教育
中村 仁(東京大学大学院)
- 16:00～16:20 甲子園大学における1年次のキャリア教育科目
西川 真理子(甲子園大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会9 大学運営

司会：前田 早苗(千葉大学)・山田 礼子(同志社大学)

会場：太平館A501

- 13:10～13:30 株式会社立大学・大学院の日米比較
—株式会社立という存在に関するイメージ— 田部井 潤(東京国際大学)
- 13:30～13:50 株式会社立大学・大学院の日米比較
—株式会社立大学・大学院とeラーニング— 栗栖 淳(国土舘大学)
- 13:50～14:10 株式会社立大学・大学院の日米比較
—フェニックス大学教育モデルの分析— 渡部 晃正(東京家政大学)
- 14:10～14:30 大学運営における外部人材の活用—国立大学経営協議会の分析を中心に—
小暮 克哉(東京理科大学)
- 14:30～14:50 総合討論
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～15:20 国立大学法人(国立大学)の授業料免除政策について
鳥居 聖(桜美林大学)
- 15:20～15:40 大学評価と「大学教育の質」の提示
高森 智嗣、森 雅生(九州大学)
- 15:40～16:00 日本の高等教育におけるIR—現状の整理と新たな取組—
江原 昭博(同志社大学)
- 16:00～16:20 自由記述の分析からみるIRへの期待と懸念の構造
岡田 聡志(早稲田大学)
- 16:20～16:40 総合討論

部会 10 教職員能力開発(1)

司 会：飯吉 弘子(大阪市立大学)・吉永 契一郎(東京農工大学)

会 場：太平館 A502

13:10～13:30 授業外コミュニティとラーニング・ブリッジングの検討

河井 亨(京都大学大学院)

13:30～13:50 教務部門の研修教材開発から見えたSDの課題

上西 浩司(鳥羽商船高等専門学校)

13:50～14:10 大学連携(Q-Links)における教職協働型研修事業の実践と課題

小貫 有紀子、久保 山宏(九州大学)

14:10～14:30 京都地域 18 大学・短大による連携FD活動 ―3年間の活動総括と今後の展開―

川面 きよ(京都FD開発推進センター)

14:30～14:50 総合討論

14:50～15:00 休憩

15:00～15:20 国公立大学におけるSDの実態

岩崎 保道(琉球大学)

15:20～15:40 大学図書館の構想策定へ向けた教職協働の試み―グループ・インタビュー調査技法の活用を軸に―

井下 理、貝塚 康宣、保坂 睦、新保 佳子、村上 篤太郎(慶應義塾大学)

15:40～16:00 大学職員のキャリア形成についての研究―新入職員と中途採用職員に必要な能力に関するアンケート調査の結果から―

高橋 真義(桜美林大学)、米田 敬子(日本私学経営活性化協会)

16:00～16:20 総合討論

部会 11 教職員能力開発(2)

司 会：田中 每実(京都大学)・夏目 達也(名古屋大学)

会 場：太平館 A503

13:10～13:30 第5週授業改善アンケートとアクションプランによる教員の授業改善力の養成

立川 明、大石 達良(高知大学)

13:30～13:50 学生参加型FD・教育改善の持続性に関する研究

服部 憲児(大阪大学)

13:50～14:10 知の共創サイクルを推進するファカルティ・ディベロップメント

井上 史子(立命館大学)、土持 ゲーリー 法一(帝京大学)、安岡 高志(立命館大学)

14:10～14:30 大学教員の教育能力の規定に関する現状と課題

杉原 真晃(山形大学)

14:30～14:50 総合討論

14:50～15:00 休憩

15:00～15:20 ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの展開―芝浦工業大学におけるFD活動事例

ホートン 広瀬 恵美子、榊原 暢久(芝浦工業大学)

15:20～15:40 大阪府立高専におけるティーチング・ポートフォリオの取組とその発展

北野 健一(大阪府立工業高等専門学校)

15:40～16:00 Faculty Development (FD)における学生参加の現状と諸課題

枝廣 和憲、前田 裕介(立命館大学)

16:00～16:20 総合討論

＜大会参加要領＞

1. 大会参加申し込み

本学会ウェブサイトにて第33回大会関連ページが開設されました。大会に参加される方は、このページより参加申し込みをお願い致します。URLは、
<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/society/page-1> です。

大会関連ページにある参加申し込み欄から申し込みフォームにお入りいただきますと、参加登録および参加費の支払いをすることができます。支払い方法はクレジットカード決済、銀行振込をお選びください。銀行振込のご選択の場合、申し込み後、5日以内にお振込をお願いします。期限内に入金がないと参加申し込みが無効になる場合がありますのでご注意ください。

参加申し込み締め切りは、**5月12日(木)**となります。(ただし要旨集の名簿掲載につきましては、**4月28日(木)**までの申し込み分となります。)締め切り以降の申し込みは、大会当日の会場受付にてお願い致します。非会員の方も参加できますので、大会ホームページ上からお申し込み下さい。

ウェブをご利用出来ない方からは、直接郵送でのお申し込みをお受けします。以下の13項目を下記の連絡先までお知らせ下さい。

①氏名②ふりがな③性別④所属大学⑤(会員の方は)会員番号⑥連絡先(勤務先 or 自宅をご明記下さい)
⑦連絡先電話番号⑧連絡先郵便番号⑨連絡先住所⑩会員・非会員・学生の別⑪懇親会の参加不参加⑫弁当・お茶の申込(1日目、2日目それぞれ)⑬参加費の振り込み人名義と金額

郵送の場合の参加申込は**5月12日(木) (必着)**となります。参加費の振り込みも下記銀行口座へ**5月12日(木)**までをお願いします。

申し込み項目(参加費等)

*大会参加費(発表要旨集録を含む)	会員	4,000円(当日受付5,000円)
	学生	3,000円(当日受付5,000円)
	非会員	5,000円(当日受付5,000円)
*懇親会費		4,500円(当日受付5,000円)
*要旨集録のみ(送料込)		2,000円
*弁当・お茶	6/4(1日目)	1,000円
	6/5(2日目)	1,000円

(※周辺に学会参加者が一斉に入れるほどの飲食店はありません。出来るだけお弁当をご利用下さい)

参加申し込み方法についてのお問合せは、下記にお願い致します。

京王観光株式会社 町田営業所
〒194-0294 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学内
TEL:(042)798-5030 FAX:(042)798-5031
E-mail: kanakitam01@keio-kanko.co.jp

銀行口座

銀行名 : 三菱東京UFJ銀行
支店名 : 振込第一支店
口座種別 : 当座預金
口座番号 : 9530072
口座名 : 京王観光株式会社

2. 宿泊について

大会会場の多摩アカデミーヒルズと桜美林大学の最寄駅の京王線・小田急線「多摩センター駅」、JR横浜線「淵野辺駅」付近のホテルをご案内しています。

ホテルの料金表は以下のとおりです。ご予約のお申し込みは、4月13日（水）より、上記第33回大会関連ページ（<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/society/page-1>）から承ります。

大会関連ページの宿泊案内欄からお入りいただき、ご予約をお願い致します。ウェブ上からのクレジットカード決済、又は銀行振込にてお支払いください。

また、お電話でのお申し込みは、4月13日（水）10:00より下記にて承ります。

お支払いはご予約後、銀行振込にてお願い致します。

『大学教育学会第33回（2011年）大会』宿泊予約受付

京王観光 町田営業所 TEL：(042)798-5030

銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行

支店名：振込第一支店

口座種別：当座預金

口座番号：9530072

口座名：京王観光株式会社

【ホテル及び料金表】（表示は1名様あたり1泊の料金）

① 多摩アカデミーヒルズ（1日目会場）

最寄駅：京王・小田急多摩センター駅から徒歩10分

シングルルーム（1名1室利用） 5,900円（朝食付き）

ツインルーム（2名1室利用） 5,900円（朝食付き）

② 京王プラザホテル多摩

最寄駅：京王・小田急多摩センター駅から徒歩4分

シングルルーム（1名1室利用） 11,000円（朝食付き）

ツインルーム（2名1室利用） 9,500円（朝食付き）

③ 東横イン淵野辺駅南口

最寄駅：JR横浜線淵野辺駅から徒歩4分

シングルルーム（1名1室利用） 4,980円（軽朝食付き）

宿泊のお問合せは下記にお願い致します。

『大学教育学会第33回（2011年）大会』宿泊予約受付

京王観光株式会社 町田営業所

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758 桜美林大学内

TEL：(042)798-5030 FAX：(042)798-5031

E-mail:kanakitam01@keio-kanko.co.jp

1. アクセス

淵野辺駅、多摩センター駅までのアクセス(所要時間は乗り換え時間を含む)



- 新宿・渋谷から
新宿→小田急線・急行→町田→JR横浜線→淵野辺…約50分
新宿→京王線・急行→京王多摩センター…約35分
渋谷→東急田園都市線・急行→長津田→JR横浜線→淵野辺…約50分
- 八王子・横浜から
八王子→JR横浜線→淵野辺…約25分
横浜→東急東横線→菊名→JR横浜線→淵野辺…約50分
横浜→JR京浜東北線→東神奈川→JR横浜線→淵野辺…約50分
- 大宮から
大宮→JR埼京線→JR新宿(以下、新宿からの経路参照)…新宿まで約40分
- 小田原から
小田原→小田急線・急行→町田→JR横浜線→淵野辺…約1時間10分
- 多摩モノレール
立川北→多摩モノレール→多摩センター駅…約25分
- 羽田空港から
羽田空港→京急空港線快特→京急蒲田→京急快速特急→横浜(以下、横浜からの経路参照)…横浜まで約25分※他に空港～相模大野・町田を結ぶバス路線もあります。

多摩アカデミーヒルズ

京王線、小田急線多摩センター駅より約10分。駅前から案内が立っています。案内の通りに進んでください。



町田キャンパス

スクールバス時刻表 (6月5日) (※110404時点での予定)

淵野辺 → 町田キャンパス

8:00

8:30

9:00

10:00

11:00

12:00

町田キャンパス → 淵野辺

13:00

14:00

15:00

16:45

17:00

多摩センター → 町田キャンパス

8:00

8:15

アカデミーヒルズ → 町田キャンパス

8:00

町田キャンパス → 多摩センター

16:45

17:00

スクールバス

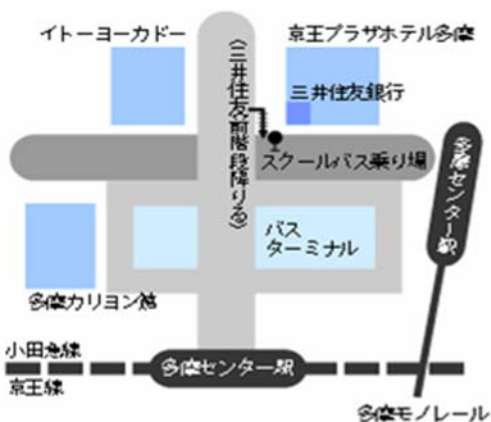
●淵野辺駅から
JR横浜線・淵野辺駅、北口PFCスクールバス乗り場より約8分。

※交通事情等により、所要時間は変わります



●多摩センター駅から
京王線・小田急線・多摩モノレール・多摩センター駅下車、京王プラザホテル多摩前より約20分。

※交通事情等により、所要時間は変わります



路線バス

- ・JR 横浜線淵野辺駅北口より神奈中バス町田バスセンター行きあるいは小山田桜台行きで桜美林学園前下車（日曜日は数が少ないのでご注意ください）
- ・町田駅バスセンターより神奈中バス（3番乗り場）小山田桜台行きで桜美林学園前下車

第33回大会に関するお問い合わせは、下記にお願いします
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学
大学教育学会第33回大会実行委員会（大会事務局）
秀島武敏 教員オフィス内 TEL：(042)797-8946
または化学実験準備室 TEL：(042)797-4935
E-mail hidesima@obirin.ac.jp

＝事務局から＝

● 被災された皆様へのお見舞いならびに会員の被災情報確認について

東日本大震災で被災された方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

現在、学会事務局では、会員ご本人あるいはお知り合いの会員の方の被災状況に関する情報を集約しております。情報をご提供くださる場合には、以下の3点をご記入の上、学会事務局までお寄せください。

1. 被災された会員のお名前
2. 会員および所属機関の被災状況(簡潔にお書きください)
3. 情報を提供して下さった方の連絡先(詳細についてうかがう場合があります)

● 会費納入のお願い

今年度(2011年度)の会費の請求書、郵便払込取扱票を同封させていただきました。**5月10日(火)**までにご入金ください。領収証につきましては、郵便払込票の受領証をもって替えさせていただきます。なお、入金状況についてご不明な方は、メールもしくはFAXにて4桁の会員番号を明記の上、お問い合わせください。追って、返答させていただきます。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金はなるべく郵便払込取扱票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、お手数ですがご入金前に必ず事務局までその旨ご連絡ください。

● 住所等変更の届出について(お願い)

定期刊行物は、おもにヤマトメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。

4月になり、所属変更およびそれにとまなう転居をされる方も多いため、何かとお忙しいと思いますが、このような事情をご理解の上、変更が生じた場合、なるべく迅速に、会員情報の変更申請をウェブ上よりお願い申し上げます。

また、学生会員で入会された方は、就職後、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。学生会員から個人会員へと登録内容を更新させていただきます。

● 2011年度課題研究集会について

2011年度課題研究集会(開催校;山形大学)は、11月26日(土)～27日(日) 山形市中央公民館にて開催予定です。

大学教育学会事務局

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学淵野辺キャンパス 3階

Tel/ Fax : (042)704-7014

E-mail : ungakkai@gmail.com

URL : <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>



【大学教育学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学淵野辺キャンパス 3階

Tel/ Fax : (042)704-7014

E-mail : ungakkai@gmail.com

URL : <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>